

【第3回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会開催報告

開催日時:令和 8 年 8 月 24 日(月)19 時～20 時 40 分

開催場所:清水町農村環境改善センター

1 開会

事務局 庶務 吉田寛臣

2 委員長挨拶

細田委員長

3 議 題

「施設の導入機能①基本方針と配置場所」について

ー検討会のスケジュールと基本構想の位置づけー

(事務局・コーディネーター)

今日は「導入機能」検討の 1 回目です。前回、導入すべき機能の方向性は概ね決まったので、今回はそのたたき台をもとに議論を進めます。今回と次回ではほぼ基本構想の骨子が固まっていく見込みで、10 月に基本構想を取りまとめる予定は今のところ変わっていません。

複合化施設事業全体のスケジュールは次のとおりです。令和 8 年度に基本構想・基本計画を策定します。基本構想では、10 月を目途に、施設の概ねの導入機能、規模、候補地・配置の考え方を整理します。この段階では詳細な図面までは作成しません。それをもとに設計会社が入り、基本計画で施設の具体的な検討(例えばトイレの配置など)が始まります。

順調に進めば、令和 9 年度に基本設計(デザイン・構造・電気設備などの設計)、令和 10 年度に実施設計(工事のための設計)、令和 11 年度に工事着工という流れになります。

今日はこの基本構想の段階として、施設の機能についてご意見をいただきたいと思います。

ー前回第2回開催(7月28日)の意見の振り返りー

前は、複合施設を検討するにあたって、まず御影地区の将来像を考えた方がよいというご意見がありました。それを受けて第2回検討委員会では、御影地区の良さや今後大切にしていきたいことについて議論し、人のつながりがあって暮らしやすい環境、子育てや高齢者にとっても暮らしやすい、というご意見が多く出されました。これを今後も大切にしながら施設を作っていくという方向性が確認されました。

ただし、人口減少や財政負担を踏まえ、過度な施設にはせず、既存施設をうまく活用しながら、消防や支所などの機能を適切に配置していく必要があるというご意見もありました。

その中で、子育て支援や多世代交流機能をどう組み込んでいくかが重要なポイントとして挙げられています。

主な意見を整理すると次の通りです。

- ・子どもや高齢者が1人でも気軽に立ち寄れる場所にしたい。図書機能や多世代交流の機能がある施設が望ましい。

- ・現在の公民館の大集会室では、文化祭や講演会など200人規模の行事が行われており、これは今後も踏襲したい。多目的ホール的な機能は必要。

- ・消防と公民館を一体的に整備する前提だが、改善センターや世代間交流センターとの使い分けは十分議論されていない。

- ・複合施設の検討を急ぎ過ぎず、御影地区全体の将来像をもう少し考えた方がよい。

- ・御影の良さ、今後10～20年残していきたいものとして、人のつながり、暮らしやすさ、ゆったりした環境が挙げられた。

また、御影は清水本庁、鹿追町、帯広市にも近く便利な地域であることから、子育てに優しい町という方向性も出ています。子育て機能については、外から人を呼び込むというより、御影に住む子育て世帯にとって便利な施設にする必要があるという意見でまとまりました。

- ・施設規模については、200人規模が入る多目的ホール(会議室)が必要、可動式の間仕切りで多機能に使えるとよい、グラウンドや公民館前の広場はイベントで使われているため残すべきというご意見がありました。

- ・支所機能については、人口減少に伴い縮小するのではという懸念もありましたが、高齢者にとって支所は不可欠であり、縮小すべきではないというご意見でまとまりました。子ども向けの図書機能についても、集約して充実させた方がよいというお話がありました。

・御影の魅力については、移住者の方々からアクセスの良さ、ゆったりした人や空間、人の温かさが御影の大きな特徴であるというお話があり、これを大切にしていけることが確認されました。

・改善センターや世代間交流センターについては、まだ使えるのであれば一度に建て替えるのではなく、既存施設を改修しながら最小限の機能にするという考え方でよいのではないかという意見がありました。一方、公民館・消防は耐震性や老朽化の観点から建て替えが必要であり、これを基本に複合施設化を進めつつ、次世代の負担にならないようコンパクトにすることが大事だというお話がありました。

－御影地区の大切にしたい地域イメージ(案)－

前回の議論を踏まえ、施設を考える上でのテーマとして「人とのつながりと触れ合いのある暮らしやすいまち御影」を仮に設定しています。

具体的には次の３点です。(あくまで仮案で、本日も意見をいただきたい部分です)

- 1 多世代が自然に交流できる地域であること
- 2 子育て世代を地域全体で支える地域であること
- 3 ゆったりと安心して暮らし続けられる地域であること

－導入機能(案)と想定面積－

御影地区で導入すべき機能として、これまでの議論から次のように整理しています。

・基本機能 - 支所機能 - 交流ロビー(多世代交流、図書機能などを含む。カフェの導入も想定) - 消防機能 - 多目的ホール(200 人規模を想定。可動式間仕切りで多機能に使える形を想定)

・検討機能(今後どう組み込むか議論が必要な機能) - 子育て支援機能 - 福祉活動機能 - 創作活動機能

これらを配置イメージとして示した図(資料 7 ページ)はあくまで機能の配置イメージであり、面積や配置が確定したものではない点にご留意ください。想定面積は以下のとおりです。(いずれも今後変わり得る目安)

- ①多目的ホール:180～220 m²
- ②支所機能:60～75 m²(スタッフ 3～4 人を想定)
- ③交流ロビー(カフェ・子育てミニサロン等を想定):90～120 m²
- ④防災備蓄庫:200 人分を想定:40～60 m²

上記の合計で 400～525 m²。廊下・トイレを含めると 530～690 m²弱程度を想定。

創作活動・福祉活動については、現在世代間交流センターで行われている機能もあるため、無理にすべてを新しい複合施設に集約せず、世代間交流センターに残すことも選択肢として考えられます。

参考事例として、沼田町の複合施設(医療・福祉・子育て・介護の機能を 1 つに集約した施設)を紹介しました。中央の廊下沿いに町立診療所、入り口付近にカフェコーナー、ロビーに福祉センターが併設されている例で、交流ロビーのイメージとして参考になります。

(事務局・清水消防署長)

ー消防機能に関する説明ー

消防の組織や出動体制について簡単にご説明します。平成 28 年 4 月 1 日、1 市 18 町村の消防が統合され、とちぎ広域消防事務組合となりました。職員総数は 700 名。全体を統括する十勝広域消防局は帯広市の消防署に併設されており、職員 65 名のうち清水町からは 2 名が任期 3 年でこの消防局に配属されています。

令和 8 年度からは人事交流も始まっており、清水消防署から新得へ 1 名、新得消防署から芽室消防署へ 1 名、芽室消防署から清水消防署へ 1 名が、それぞれ人事交流で派遣されています。

10 年前の広域化に伴う主な変更点は次の 2 点です。

①119 番受付の一元化:これまで市町村ごとに受け付けていた 119 番通報を、帯広市内にある指令センターで一括して受け付けるようになりました。

②出動体制の変更:市町村の垣根に関係なく、現場に最も近い消防署から出動する体制になりました。例えば御影の旭山地区は芽室の方が近いので、芽室から救急車が出動することもあります。建物火災など大きな災害の場合は、従来通り地元の消防署・消防団にも出動指令がかかり、規模が大きい場合は複数の消防署へ出動指令が出ます。「遠くの指令センターで受け付けると出動が遅くなるのでは」という懸念については、高度な指令システムの活用により、場所の特定や出動指令はむしろ以前より早くなっており、出動中の車両にも最適なルートなどの情報が送られるため、現場到着・活動開始は従来より早くなっています。

一方、各市町村の消防体制・消防署の場所・車両配置、消防署と消防団の連携はこれまでと変わりません。消防団も広域化後は各市町村の組織となり、清水町には清水消防団と御影消防団があります。消防署との連携は維持され、地域に密着した対応を続けています。

ー清水消防署・御影分遣所の概要ー

清水消防署には予防・警防・救急係があります。御影には御影分遣所、御影消防団があります。消防団員は普段は会社や店舗で働いていますが、大きな災害時には消防署員と同様に活動するほか、月 2 回集まって放水訓練や資機材の取り扱い訓練を行い、高齢者宅を訪問して火の取り扱いについて呼びかける活動も行っています。

車両については、清水消防署に 7 台、清水消防団に 4 台、御影分遣所に大型水槽車 1 台・指揮車 1 台・水槽付消防ポンプ自動車 2 台・多機能型消防車両 1 台があります。

人員体制は、清水消防署配属 21 名、御影分遣所 3 名、清水消防団は条例定員 65 名に対し実員 47 名、御影消防団は定員 40 名に対し実員 31 名(7 月 1 日現在)です。清水消防署には令和 9 年 4 月 1 日付で救急救命士 2 名の採用が予定されており、来年 4 月からは 26 名体制になります。

参考までに、全国の年間火災件数は 37,141 件、救急出動は約 7,718,380 件です。清水消防署管内の令和 7 年の実績は、火災件数 14 件、救急出動件数 381 件、救助出動件数 24 件、警戒出動件数 38 件などとなっています。

ー御影の現況と今後の面積想定ー

現在の御影分遣所は、敷地面積 2,142.11 m²、庁舎建物面積 617.97 m²(1 階・2 階、塔屋あり)、別棟の倉庫・車庫 54.36 m²、庁舎前の訓練スペース 382.59 m²、駐車スペース 320.45 m²という構成です。

現状の課題として、車庫が非常に狭く、車両と壁の間を人がまっすぐ通れないほどで、横向きにしか通行できない状況です。2 階には和室や消防団待機室、物品庫などがありますが、あまり使われていない部屋もあります。

電気室・機械室・階段・トイレなど「その他」に分類される部分は、公民館との複合化により共用可能ではないかと考えています。共用化により建物全体の面積を圧縮できる可能性があります。同様に、非常用発電設備や備蓄倉庫についても公民館との併用が考えられます。

新しい御影の想定面積は合計 791 m²です。(現状の面積をベースに、車庫のみ拡張を希望)消防団についても部屋を分ける必要はないとのご意見があったため、待機室と幹部室機能を統合したベース部屋として計画したいと考えています。参考までに、清水消防本署の庁舎面積は約 2,170 m²です。

このほか、危険物倉庫は公民館と別棟でもよいと考えています。ボイラー(現状は重油)は、今後の技術動向次第です。駐車場は職員・来客用 5 台、訓練用 40 台を想定しています。訓練スペースは現状 382.59 m²ですが、消防演習に必要な 80m×60m の敷地を確保したいと考えており、雨天時の訓練に対応できるようアスファルト舗装を希望しています。敷地面積の合計は 4,732 m²(清水庁舎約 9,800 m²)を想定しています。

－意見交換－

(事務局・コーディネーター) : 消防からご説明いただいた通り、建物だけで 791 m²、それに訓練スペースが必要というお話でした。複合施設の基本機能(支所・交流ロビー・消防・多目的ホール)に、どう機能を付加していくかを、使い方も含めてご意見いただきたいと思います。使い方によって必要な面積も変わってきますので、その点も踏まえてご発言ください。

(委員) : 災害時の避難所として使う場合、炊き出し用の調理室のような機能が必要になると思いますが、消防で想定している調理場の転用は可能でしょうか。

(事務局・清水消防署長) : 御影地域全員分を賄うのは難しいと思いますが、清水消防署の分も含め、ある程度の調理機器を置く機能を持たせることは可能だと思います。

(委員) : 関連して、多目的ホールを 180～220 m²としていますが、現在の御影公民館のホールと比べてどうでしょうか。

(事務局・コーディネーター) : 現在の御影公民館ホールは 258 m²なので、若干小さめを想定している。

(委員) : 災害時の関係で伺いたいのですが、消防団の待機室は、避難所として使うことはできますか。

(事務局・清水消防署長) : 待機室は基本的に消防団の部屋で、災害がいつ起こるか分からないため、そこを一般利用に開放するのは難しいと思います。面積も 100 m²程度で、消防団員 30 数名が入ると一杯になる広さなので、避難所として使うには手狭だと思います。一時的な利用は可能かもしれませんが、避難所としての面積は不足していると考えます。

(委員) : 備蓄倉庫の食料は、現状どの程度のものを想定していますか。

(事務局・清水消防署長) : 現在の御影分遣所の倉庫にも、災害用の段ボールベッド、毛布、非常食があります。水は清水本庁から必要時に運ぶ想定です。非常食は 200 人分を目安にしています。

(委員) : 備蓄に関連して、民間事業者(例えばドラッグストアなど)に店舗として入ってもらい、平時は営業しつつ、災害時には連携協定で備蓄品として開放してもらうという考え方もあるのではないのでしょうか。最低でも 15 坪程度の店舗規模から、そうした事業者と連携できる可能性があります。200 人規模の避難対応に加えて、住民が日常的に交流できる

場所という目的を達成するには、カフェだけでは日常利用の動機付けとして弱いと思います。スーパーのような店舗が入れば、住民満足度も上がるはずです。事業者との交渉次第ですが、そうした可能性を検討する余地はあると思います。

また、御影では、御影唯一のスーパーが撤退すると生活が一気に不便になる可能性があります。今、高齢者の方々が住みやすいと感じているのは、このスーパーがあることも大きいと思います。もしスーパーが撤退することがあれば、コンビニのような事業者が入らないと、買い物に困る住民が増え、住みにくくなってしまいます。単純に備蓄倉庫としてお金をかけ続けるより、日常的に営業している店舗と連携した方が、建物の減価償却の観点からも合理的だと思います。町として、こうした民間事業者との災害協定の可能性を検討してもよいのではないのでしょうか。

(事務局長):町としてもいくつかの企業と災害協定を結んでいますが、詳細は今すぐには分かりません。また、備蓄倉庫については必要最小限のものにとどめる想定です。200 人分の備蓄では、人口比で見るとごく短期間分にしかならず、それが適正かどうかは議論の余地があります。一般的には、公共施設での備蓄に加えて、各家庭でも 3 日分程度の備蓄をお願いする、という考え方が一般的です。

(事務局・コーディネーター):今のご意見を整理すると、備蓄スペースの有効活用として、平時は民間事業者に店舗として利用してもらい、災害時には連携協定に基づいて備蓄品として開放するという使い方が考えられる、ということですね。今の案のままだと、日常的に使われるのはカフェ程度で、それだと利用者の母数がかなり限られてしまいます。多世代交流という目的を達成するには、スーパーのような、より頻度高く使われる機能があつた方が、住民満足度も上がると思います。ただし、事業者を確保できるかどうかは別途検討が必要な課題です。ある地域でコンビニチェーンが出店を検討する際のマーケティング調査では、商圈人口 3,000～4,000 人程度が最低ラインとされていました。御影の人口規模でその条件を満たせるかは分からない部分もあります。日常的にもっと人が来るようにするには、カフェだけでは弱いというのは重要なポイントだと思います。運営の工夫も含めて、引き続き検討したいと思います。

(委員):カフェに限らず、チャレンジショップのような形で、何か事業をしたい人が出店しつつ、施設運営スタッフの一員にもなれるような仕組みがあるとよいと思います。公民館は教育委員会の所管、コミュニティセンターはまちづくり関係の所管というように、施設の位置付けによって法律上の利用制約が異なるため、その点も踏まえて検討する必要があります。

(事務局・コーディネーター):公民館という位置付けだと利用に制約が出る可能性があるので、その点は検討が必要です。できるだけ多くの人々が日常的に来られるようにするには、カフェやチャレンジショップなど、御影の方がやってみたいと思えるような場があるとよいで

すし、その方々が施設の運営スタッフを兼ねる形も考えられます。近年、民間企業が地域のにぎわい創出やコミュニティカフェ運営を担う「エリアマネジメント」という手法も増えています。公民館やコミュニティセンターの運営を民間の力を借りながら進める、あるいは地域の方々が組織をつくって運営することも考えられ、そうした関わり方は大事な視点だと思います。

(委員): 公民館前の駐車場はイベントでそのまま使いたいという要望がありました。あそこには公民館の倉庫があり、1 階には公用車や TENT 等が、2 階には郷土資料などが保管されています。この倉庫はできる限りそのまま残せるとよいと思います。

(委員): 消防車庫についての確認ですが、車両の台数や職員数は今と同程度で、車庫だけ広げるという理解でよいでしょうか。

(事務局・清水消防署長): その通りです。地震の際に車両と壁がぶつからないよう、車庫は広げたいと考えていますが、それ以外の面積は現状の建物をほぼそのまま踏襲する想定です。公民館と併用することで、共有できる部分の面積を圧縮したいと考えています。今より大幅に広くするイメージではありません。以前より車両自体が大型化しているのだと思います。職員体制は長らく 2 名体制で、消防団員数も定員 40 名に対し 35 名程度で推移してきました。車庫や倉庫は、車両が増えるたびに後から増築されてきた経緯があります。人口減少も見据え、現状維持程度の面積を確保したいと考えています。

(委員): 訓練スペースを清水本署と共有するという考え方はできないでしょうか。

(委員): 消防団はそれぞれの地域で組織されており、月 2 回の訓練や、火災後の資機材の手入れなどを行っています。清水と御影は 10 キロほど離れており、それぞれの現場に迅速に対応するには、それぞれの地域に消防署・消防団が必要だと考えます。

(委員): 他の自治体で、訓練スペースを共有している事例はないのでしょうか。

(事務局・清水消防署長): 地域同士が近接していれば中央に 1 つ設けることも可能かもしれませんが、清水町の場合、10 キロ離れているため、その距離を考えると、それぞれの地域に消防署・消防団が必要だと考えます。

(委員): 月 2 回の訓練のときだけ清水に集まり、それ以外の機能は御影に残す、という運用は検討できないでしょうか。

(事務局・清水消防署長): 車両はそれぞれの地域にあるため、兼用は難しいと思います。ただ、合同訓練を行うことは可能だと思います。清水まで訓練に行くだけで片道 30 分程

度かかり、その分、消防団の訓練時間が削られてしまいます。他の町村でも同様に、地域ごとに分団を分けて運用しているのが実情です。

(委員):同じ機能を町内 2 か所に整備するコストについては、どう考えればよいのでしょうか。共有できる部分(ホースなど)は共有し、駐車場なども必要に応じて共有する形は考えられると思います。

(事務局・清水消防署長):訓練は朝の空いている時間帯に行っているのですが、共有は難しいのではないかと思います。

(委員):もともとは、公民館の横に消防団の詰所程度の建物があればよいのではと考えていましたが、必要な機能を伺って、なるほどと思う面もありました。ただ 1 点、御影消防団には定年制がなく、今の平均年齢を考えると、これから地域に新たな担い手(農協、企業、役場など)が増えなければ、団員は高齢化していく一方です。定員 40 名に対し実員 31 名という状況を踏まえると、5 年後、10 年後を見据えたときに、今回想定している規模の施設が本当に必要か、それとも詰所程度の規模でよいのか、という視点も必要だと思います。

(事務局・清水消防署長):火災発生時、消防団員がまず現場で打ち合わせをする場所として、会議や研修に使えるスペースが必要です。それ以外の会議は公民館の会議室を使う想定です。お互いに共有できる部分は共有しつつ、消防として必要な機能は維持したいと考えています。

(委員):この検討委員会として、世代間交流センターや改善センターにどのような部屋がどれだけの面積であるか、実際に確認、勉強した上で意見を出せるとよかったのではないかと思います。配置図をもとに、何が共有できるかを話し合う機会があるとよかったと思います。消防の面積についても、本当にそれだけの規模が必要なのか、疑問に感じる部分もあります。

(事務局・清水消防署長):新得の支所と消防が併設された建物を事務局で視察してきました。御影分遣所とほぼ同様の機能で、新得の方が人口規模・車両数がやや多い分、建物もやや大きい程度でした。複合施設にすることで、管理体制の効率化に加え、会議室・和室のようなスペースを 1 か所に集約できるメリットがあります。駐車場も、イベントごとに応じて共有すれば、必要な駐車スペースを減らせると考えられます。

(事務局・コーディネーター):できるだけ共有できるものは共有していく、というのが消防側の考え方であり、複合施設のメリットでもあるというお話でした。必要なものはしっかり作るべき、というお気持ちと、共有できるものは共有すべき、というお考えの両方があったかと思います。

(委員):現在の公民館駐車場のスペースは、100 人規模のイベントを行うにはかなりギリギリの広さです。もう少し余裕があるとありがたいと思います。ただし、消防車両の緊急出動時には駐車場を空けておく必要があるため、それを踏まえた配置にする必要があります。

(事務局・清水消防署長):建物の配置次第で、入り口を工夫するなど対応は可能だと思います。新得でも同様にイベント時は消防車が出られる範囲を確保しつつ運用しているとのことでした。月 2 回の訓練のときだけ駐車場を空けてもらうという運用は問題ないと思います。効率のよい使い方として、普段は駐車場として使いつつ、訓練日にはその区画を消防が使うという形が考えられます。消防本署でも、普段は駐車スペースとして使い、訓練や演習を行う際は別の場所を借りて敷地全体を使うという運用をしています。

(委員):公民館と改善センターが将来つながる場合、現在はそれぞれに夜間管理員がいますが、1 人体制にできれば人件費の削減にもつながるのではないかと思います。

(委員):民間事業者に入ってもらうことで地域内の経済循環を保てる可能性があります。家賃無料という選択は重い判断ですが、スーパーがなくなった場合の人口流出リスクを踏まえると、それでもプラスになるという判断もあり得ます。ローソンで実証実験を行っている例もあります。

(事務局・コーディネーター):テナント誘致に関して、事業者側からすると、固定費に見合う集客が見込めない、人が集まらないという課題があると思います。他の町の事例では、複合施設にテナントを誘致する際、人口規模的に採算が合いにくいいため、家賃をほぼゼロにして入居してもらっている例があります。そうした自治体は他にもあり、事業者に条件を提示しながら、どこまで家賃を下げれば入居につながるか探っていく必要があります。これは再開発事業でも同様で、条件交渉には 1 年半～2 年程度かかることもあります。撤退のリスクも考慮する必要があります。再開発事業でも、収益が上がらず 1 年程度で撤退する例は多々あります。

(委員):10 年前の消防広域化以降、清水町にも他地域からの応援出動が増えているというお話がありました。

(事務局・清水消防署長):本町の場合、新得・鹿迫・芽室のいずれから見ても、清水(御影含む)が比較的近い位置関係にあり、そのため近隣町村からの応援を受けることが多い地域特性があります。救急車もそれぞれの地域に 1 台しかないため、出動中は近隣から応援が入る形になっています。

－まとめ－

(事務局・コーディネーター)：今日は消防のお話を詳しく伺いました。消防としては、今の機能をしっかり維持しつつ、車両の大型化を踏まえて車庫のみ面積を拡張し、公民館・支所と複合化することで共有できる部分は最大限共有していくという考え方が示されました。これは複合施設としてのメリットでもあります。共有できる範囲については、引き続き検討が必要です。

もう一つの大事なポイントは、施設をより日常的に人が集まる場所にするための工夫です。カフェの提案だけでは弱いというご意見があり、スーパーのような店舗があれば、より多くの御影の方が日常的に集まる場所になるのではないかというお話がありました。ただし、テナント誘致には時間がかかる可能性があるため、店舗誘致に限らず、人が集まる仕掛けをいくつかのパターンとして次回ご提案したいと思います。他の自治体では、交流ロビーにカフェとチャレンジショップを組み合わせる人を集めている例もあるので、参考にしたいと思います。

駐車場についても、イベント利用と消防訓練の両立という課題が挙がりましたので、引き続き検討していきます。

今日いただいたご意見は、施設の「使い方」をどう工夫すれば、より多くの御影の方が日常的に集まる場所になるかという点に集約されると思います。これを次回までの検討課題としたいと思います。今日いただいた宿題は簡単には答えが出せない、重い内容だと感じています。カフェだけでは日常利用が広がらないという課題認識を踏まえ、どうすれば機能を高められるか、ご提案を用意したいと思います。

これまで3回の議論の内容を整理したニュースレターを作成し、御影地区の皆さんにお配りする予定です。それを見た方からご意見があれば、検討委員のメンバーを通じてお寄せいただきたいと思います。できるだけ多くの方に今の検討状況を知っていただきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

4 閉 会

委員長 細 田 秀 夫

【第3回】御影公民館及び清水消防署御影分遣所建設町民検討委員会

開催日時:令和8年8月 24 日(月)19 時 00 分～20 時 40 分

開催場所:清水町農村環境改善センター

出席委員 :

細田委員長、赤堀副委員長、菅野委員、山方委員、五十嵐委員、川端委員、~~永田委員~~、
後木委員、長谷川委員、~~大久保委員~~、宮間委員

事務局 :

御影支所 太田支所長(事務局長)、吉田次長(事務局庶務)

清水消防署 三好署長(事務局次長)、横山御影分遣所長、山川庶務担当主幹

企画課 佐藤課長補佐

建設課 山田課長、小笠原課長補佐、野口建築係長

コーディネーター:株式会社 KITABA 酒本

傍聴人 :6人